

# パラ・アルペンスキー競技の成果と 2018年平昌冬季大会に向けた取り組み

## 今シーズンの成果

今季は IPC アルペンスキーワールドカップの全レース(17試合)に参戦しました。表彰台を逃したのは1レースだけで、そのほかのレースでは連日、日本選手が表彰台に上がる活躍を見せました。

基礎体力の向上を狙ったトレーニングを行った結果、体力の向上は顕著で、シーズンの最後まで良好なコンディションを維持する選手が増えたことも大きな成果でした。2018年平昌冬季パラリンピック競技大会が3月に開催されることを想定して、選手の体調管理やピーキングの作り方についても試行を重ねました。

- (1) 森井大輝選手が IPC スキーワールドカップで総合優勝。日本選手としては鈴木猛史選手に続き2シーズンぶりの快挙。
- (2) 村岡桃佳選手が IPC ワールドカップで初優勝(スーパーG と大回転競技)。大回転競技で種目別総合優勝。
- (3) 三澤拓選手が IPC スキーワールドカップアスペン大会で2位となり、8年ぶりに表彰台に上がることができた。

## 来シーズンに向けた課題

- (1) スピード系種目の強化。特にダウンヒル(滑降競技)のトレーニング量の確保
- (2) スキー板の滑走性(ストラクチャー、ワックス)を高めるための体制整備(専門人材の確保)
- (3) 競技力を高めるための用具の研究開発と実戦投入(空気抵抗削減効果が大きいチェアスキー用カウルの開発、スピード種目に対応できるチェアスキー用ダンパーの開発)

## 2018年平昌冬季パラリンピック競技大会に向けた強化活動

スピード系種目であるダウンヒル(滑降競技)の集中的なトレーニングを実施するため、初めて南米のチリで雪上合宿を行う予定です。

また、2016/17シーズンの目標は、2017年1月にイタリアのタルヴィッシオで開催される世界選手権大会と2017年3月に韓国で開催される IPC アルペンスキーワールドカップ韓国大会の2大会におけるメダル獲得です。

IPC アルペンスキーワールドカップ韓国大会は2018年平昌冬季パラリンピック競技大会のテストイベントとして開催されますが、スピード系種目において本番のコースを滑走できる唯一の機会となるため、大会コースの特徴を正確に把握できるよう多方面から調査と練習を行います。

**パラ・アルペンスキー競技**  
**2015/16 ワールドカップ総合成績**

			総合成績	滑降	スーパー 大回転	大回転	回転
男子	座位	森井 大輝	1位	7位	4位	1位	1位
		鈴木 猛史	4位	9位	6位	9位	2位
		狩野 亮	8位	4位	8位	24位	8位
		夏目 堅司	16位	8位	18位	15位	21位
	立位	三澤 拓	8位	10位	6位	11位	7位
		小池 岳太	17位	16位	10位	16位	17位
女子	座位	村岡 桃佳	3位	3位	2位	1位	4位